

第1回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成29年10月13日（金） 午後3時10分～午後4時10分

場所：5階カンファレンスルーム

出席者：(学外) A～F 6人

(学内) G～N 8人

1 校長挨拶

本日は、卒業生2名を含めた外部委員の方々に、当校のカリキュラムの編成、強化に向けてご教示をいただきたい。新しく制度も変わり、教育訓練施設としての専門学校は大学校へ、または、短期大学校へと変遷を遂げつつある。そのような動静の中で、社会人の学び直しの際に、当校を選んでもらえる学校にならなければならない。本日はより活発な意見を賜りたい。

2 議題

平成29年度教育課程編成に基づく運営状況について（中間報告）

【看護学科】

委員K説明 資料I（P1）表1参照

①ICLS講習終了認定者の拡大

本年度は、講習会開催は前年度と同様4回であったが前年40名から47名と認定者増となった。理由としては、外部の受け入れ人数を減らしたためである。今後も継続して開催回数を増やしていきたいと考えているが、外部講師の都合により調整が難しい状況である。しかし、就職前に救急の緊急時の対応が習得できる点は当校の強味でもあるため、引き続き講師へのアプローチを継続していきたい。また、卒業前には外部インストラクターを依頼し知識・技術の定着を行っていききたいと考えている。

②看護基礎技術の教材の工夫

視覚教材（DVD・IPAD・スマホ）を用いた取り組みを引き続いて行っている。今年度は、技術DVD1項目（バイタルサイン）を追加作製し、全5項目となった。残り1項目は年度末に製作予定である。

③卒業前技術強化

毎年、希望で行ってきたが技術を売りにしているので、今年度は全学生を対象に実施予定である。看護技術の7項目（吸引、心電図、採血、筋肉・皮下注射、点滴・留置針、導尿、経管栄養）とICLSの再確認1時間ごとにローテーションを組み技術強化を行っていききたいと考えている。

④国家試験対策

12月には卒業生5名による国試対策を予定通り開催の方向で調整中である。現在、学生が決めた正答率85%を目指して教員が作成した国家試験問題60問を定期的の実施し、9月に全員目標を達成できた。今後も継続して行っていく。また、3年生の成績下位16名（現在22名）の学生に対し、個別に講義など実施し対策を行ってきた。徐々に成果が表れつつあるが、引き続き対策を行っていく。今後の新たな取り組みとして、1月に各講座の教員が1時間程度の集中講座を開講予定である。

委員L説明

⑤実習指導

昨年度より、基礎看護実習、成人看護学実習とも1施設（宇部興産病院）追加した。結果的に、病棟単位の学生数が少なくなり、教員による指導がより密となった。また病院間の（急性期、回復期など）違いを埋めるために、病院ごとの実習調整会議を行った。会議では指導内容の共通認識を図り、学びに差がでないように取り組んだ。

また実習グループの編成では、メンバーを固定していたが、領域ごとにメンバーを変えて編成した。その結果、メンバー間の調整能力の向上、リーダーの役割を担うことができている。また、実習に行かない教員には時間に余裕ができた。

委員A：今回、実習先が増えたとのことだが、現在の実習場所はいくつか？

委員I：領域も含め8か所である。

委員E：教材のDVDはどこで見ることができるのか？

委員K：DVDは学校でプレーヤー、iPADなどで閲覧できるが、在学生にはパスワードを提示しているため、スマホでも閲覧できる。自宅でも見る事が出来るので、技術がイメージしやすい。

【介護福祉学科】

委員M説明（資料Ⅰ P2 表2 参照）

①レクリエーション介護士2級全員取得に向けた取り組み

認定に必要なカリキュラムへ変更し、1年生は11月に学科試験を受ける。2年生は来年の2月に受験予定。（60点以上で合格）

②介護実習評価表について

前年度、8：2から5：5となり、施設側の評価の比率が下がった。施設側から、負担軽減ができたとの声が聞かれている。

③国家試験対策（養成校受験の動向）

県内7校中6校が受験予定。1校が検討中とのこと。来年度1月下旬に国家試験がある。当校も全員受験予定である。対策としては、3年過去問から抽出した模試を2回実施している。今後、学科別に的を絞った国試対策を行う。

④ホームカミングデイ（旧卒業後教育）の報告

実施は8月4日に実施。25名中20名参加し、要望により、開催時間を10時～15時とした。

⑤外国人留学生の現況

学習面・生活面でフォローしている。実習先の施設からは良い評価を持たれている。

委員D：施設でも様々な境遇の方が、介護を志して働かれている。学生に伝えたいこととして、「反復学習の大切さ」を教育してほしい。機会があれば、定年後に介護の資格を取得した方の苦労話など聞かせたい。別件だが、日本語学校など公民館レベルで学ぶボランティアによる運営なども提案したい。他大学の留学生事情では交通手段がないことも問題である。

委員B：学生Aさんは通訳など手配しているのか？

委員J：Aさんの会話は問題なくできている。

委員F：（報告を受け）Aさんは、平日学校で、休日はアルバイトで休息などはあるのか？

委員J：就職先には、試験前、実習中には休めるようにお願いし勤務を調整してもらっている。

委員J：（外国人を対象にした介護業界の動向）外国人を取り巻く情勢として大きく3つ動いている。1つは「EPA」介護現場で就労しながら3年間で介護福祉士を目指す制度、もう1つは、「在留資格介護」この制度を使って今回の留学生は入校している。2年間養成校に通い国家資格を目指し、取得できれば日本での就労ができる（5年ごとに更新）新たな制度としては、この11月から追加される予定の「技能実習制度」この制度はあくまでも技能移転（日本で技能を身につけ母国に還元する。最長でも5年間しか滞在できない）であり、人材確保を目的にしたものではない。これらの動向をよく見ながら、新しい市場になるので、しっかりと受け入れ・サポートの体制を整えていく必要がある。

委員J：社会人の基礎力の育成カリキュラム、卒業前の特別講座について説明

（看護学科）前期1コマ：授業の受け方、資料のまとめ方など講義。生徒の半分が生物を受けていない状況。基礎生物学を4コマ希望者に講義を実施。

（介護福祉学科）前期4コマ：自己理解の講義を本部の講師から講義があった。

（介護福祉学科）国家試験が1月下旬である。就職までの期間に技術習得ができるように「口腔ケア」について実習を入れる予定である。その他には「就職についての心得」「労働条件セミナー」「生活設計とリスク管理」など予定している。

委員D：「就学前の心得などのカリキュラム」に関してお勧めしたい図書がある。

全国基準監督署連合会「働く人のABC」内容（礼儀、礼節、守らなくてはいけないことなど）

議事について、全員一致で承認された。

その他

委員C：現在、学生を受け入れる病院として臨床指導者以外にも、国家試験の本を購入し学習している。学校での学び技術など臨床の現場では簡素化されている。学校で学習する内容と臨床の場での違いを確認しながら指導ができればと思っている。

委員K：先日終了した、成人看護学実習では、光総合病院の実習生の表情が良かった。病院での取り組みが反映していると思われる。大変感謝している。

委員A：看護協会では実習指導者講習を開催している。今回参加し、参考になることが多かった。ここでの取り組みを養成に活かしていきたい。

司会

それでは、次回は2月に学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会を同日開催の予定です。事前に日程調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、平成29年度教育課程編成委員会を閉会いたします。

YIC 看護福祉専門学校 平成29年度 第2回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成30年2月20日（火） 午後3時10分～4時

会場：5階カンファレンスルーム

出席者：学外委員A～E

学内委員F～N

欠席者：学外委員1人

1. 校長挨拶

卒業生2名も遠方から出席しているので、実践的な視点からカリキュラムの企画・運営評価を具体的にしていきたい。今年度は両科ともに国家試験合格に向けて学生と教員が共に頑張ってきた。今年度の取り組みとその評価から今後の課題を抽出し、国家試験合格率100%に向けてご意見をいただきたい。

2. 議事

議長：委員長

【看護学科】

(1) 平成29年度の実績と評価、今後の対策（J委員説明）資料I P1 表1参照

①ICLS講習修了認定者の拡大について

講習会の開催は4回、認定者は47名であった。今年度の評価として卒業学年の6期生52名中希望者は48名であり、在学中に全員が受講できた。しかし8期生の人数を考えると今後は拡大に向け継続的なアプローチを行っていく必要がある。

次年度の計画は、開催回数を増やし認定者の拡大に努める。

②看護基礎技術の教材の工夫について

視覚教材に関して3月に基礎看護技術1項目のDVD制作を予定しており、基礎看護技術全6項目のDVD化終了と考えている。

次年度は教材を活用し、基礎看護技術習得に向け、更なる取り組みの強化を図りたい。

③卒業前技術強化について

卒業生全員に対しての実施は初めてとなる。技術項目を6グループに分け、1日で全項目の確認を行っていくよう計画している。1グループが心電図・採血、2グループが吸引・筋肉・皮下注射、3グループが留置針による点滴静脈内注射、4グループが持続的導尿、5グループが経鼻経管栄養、6グループがICLSで実施日は今週金曜日の予定である。実施後の評価を次年度の計画に反映していきたいと考える。

④国家試験対策について

卒業生による国試対策講義は2年前から始めた。今年度は5期生5名が来校し対策講義を実施。教員も1人1科目担当し全11回実施した。この対策講義の参加は、下位学生は強制、他の学生は任意としていたが、ほとんどの学生が参加した。また下位29名は、国家試験前日まで登校し、模試や口頭試問等の強化対策を実施した。

国家試験については、入学時より意識して臨むために学内授業・実習の中でも強化しており、3年生については、4月に国家試験に向けての動機づけを行い、下位グループへの強化も実施してきた。その中で、学習習慣が身に付いていないことから国家試験までなかなか成績も伸びず、焦りと不安の多い時間を過ごした学生もいた。

次年度は、進研アドの教育プログラムを導入し、入学前教育を始め、継続した学習習慣をつけ、学生個々の学習状況に応じた指導を行う予定である。

⑤実習指導の充実（K委員説明）

U病院が実習先として追加され、基礎看護学実習、成人看護学実習ともに4病院となった。実習病院が増える事でのメリットとして、急性期での学びができたという反面、各病院での学びの違いもクローズアップされた。発問リストを作成し、教員間で共有することで指導の差がでないよう取り組んだ。次年度も継続していく。

学生への実習満足度調査結果においては、「理想の看護師に会えた」、「医師や看護師と一緒に問題を導いていただいた」という意見があり、病院全体で実習を受け入れていただいていることに感謝している、また、教員の指導方法や学内と病院での違いなどに戸惑いを感じたという意見もあった。満足度は全体で最高90%から73%で平均80.2%であった。教員間の指導の違いが無いように、PDCAを回していく。

C委員：現場が多くあると、教員間の違いだけでなく、病院間でも違いはある。学生が戸惑わない為に、どうしたらいいか具体的なところを抑える必要がある。

A委員：実習終了後、学生達が共有できる発表などはないか？

K委員：基礎Ⅰでは学生間の共有を実施している。

A委員：各自の体験を共有することで成果がある。

K委員：実習病院が増え、一病棟あたりの学生人数が少人数になることで指導者も見る視点が広がる。

D委員：ICLS受講は現場ですぐに対応することができる。各学年に合わせて実施し、卒業前にもICLSの意味を理解することが必要。

【介護福祉学科】

(2) 平成29年度の取組と評価 (L委員説明) 資料Ⅰ 資料Ⅱ参照

①レクリエーション介護士2級全員取得に向けた取り組み

1年生は授業時間数40時間の中にカリキュラムを導入し、1年生20名全員が取得となった。2年生は任意受講で3名が希望しており、3月に3日間集中講座を予定している。

②介護実習評価表について

施設側と学校側の評価割合を5割ずつに変更したが、施設側から評価がしづらいなどの意見はあがっていない。実習において再実習となった学生もいない。評価内容を詳細に記載した事で指導者との意識統一ができた。

③国家試験対策について

教員引率のもと16名全員が受験した。

模擬試験は9回実施した。チューター制を取り模擬試験後に教員が各グループで振り返りを行った。点数が低い科目に対して5科目計18回にわたり、教員が補講を行い強化していった。

④ホームカミングデイ(旧卒業後教育)の報告

8月4日に実施内容や事前事後のアンケート結果は別紙参照。

⑤外国人留学生の現況

留学生に対しては日本語教員有資格者の講師に依頼し1週間に1回、テキストを使用し勉強している。友人も増え、学校生活、プライベートとも問題なし。

(3) 平成30年度の課題と対策

①国家試験対策の検証と内容の充実

②外国人留学生の受け入れ体制と日本語基礎教育への取り組み

③地域貢献活動の拡大

I委員：国試は今回初めてのことであり、看護学科と情報を共有しながら進めた。今後、もっと充実させていく必要がある。次年度の留学生の予定は中国から2名、ベトナムから5名の計7名の予定。今年度の1名がモデルとなった。

B委員：日本語能力試験はどのくらいですか。

I委員：ベトナムの5名はN3をとってくる予定。中国の留学生においてはN2を取得している。

E委員：レクリエーション介護士2級については、2年生3名はカリキュラムに組み込まれていないのに受講している。

L委員：この3名はデイサービスに就職することが決定している為受講となった。

C委員：現場では看護と介護が連携し、患者の特徴を捉えた援助や、同じレクリエーションでもその人に合わせた内容を考えられている。

I委員：以前の実習では同じものを提供していた。今年度は事前に施設を訪問しアセスメントをしたうえでレクの内容を考え、実施するようにした。学生もPDCAを回していく。

国家試験の手順など今年の経験を活かして次年度につなげていく。

司会

次年度は10月と2月に学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会を同日開催の予定である。事前に日程調整をさせていただくのでよろしくお願いしたい。